

令和 5 年度

事業所名： 介護予防施設 西光荘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544-2		
自己評価作成日	令和5年10月9日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・西光荘は、県内で唯一天然温泉を入浴サービス提供している施設です。 ・四季を楽しみながら天然温泉に浸かり、体調の改善にも繋がり安心して生活を送って頂けます。 ・開業してからまだ看取りまではいっていないが、重度化した利用者様を訪問診療の先生と相談しながら、可能な限り介護サービスを提供しています。 ・専任の看護師により利用者様の体調管理をすることで、安心して過ごせるようにしています。 ・百歳を迎えた利用者様、そのご家族様、町と「百歳を祝う会」を開催。 ・コロナが続く中でも分散し、行事を楽しんで頂けるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、酪農の放牧地や森林に囲まれた自然環境に恵まれた場所に立地し、敷地内には同法人の運営する温泉施設がある。小規模多機能ホームが併設され、大型浴槽の利用やイベント等の共同開催、看護師の支援など、連携を図りながら充実した介護サービスを提供している。法人の定めた基本理念のもと、年度の目標を立て、日々の業務に当たるとともに、利用者や家族の意向はもとより、コロナ禍の対策や人材確保などに関する運営推進会議の助言や提言を、利用者のケアに活かしている。また、職員の提案を受け、施設内での行事や車イス利用者対応のトイレの手すりの設置など、施設の整備などが具体化されている。利用者の高齢化や介護度が上がる中、訪問診療医や看護師の助言、支援を受けながら、終末期の介護サービスを提供している。また、コロナ禍の動向を見ながら、小学生との手紙交換、ボランティアによる歌や踊りを受け入れるなど、地域との交流にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎朝の申し送り後、基本理念、介護理念、介護目標を唱和し、職員で共有し実践に繋げている。 ・月2回の合同ミーティングでは、職員信条を唱和し目標に取り組んでいる。	基本理念及び介護理念は、開設時に小規模多機能ホームと一体の介護予防施設「西光荘」として策定した。言葉遣いや挨拶などについて記した職員信条は、職員の提案をもとに5年ほど前に策定し、日々の業務の中で気付きを促し、利用者へのより良いサービスにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナの感染状況が落ち着いてきた事で、夏祭り、敬老会では運営推進委員の方々やボランティアの方々に歌や踊りを披露して頂き交流ができた。 ・小学校のボランティアスクールも来荘されました。	コロナ禍の感染対策が緩和されるなか、夏祭りや敬老会等の行事では、運営推進委員や地域のボランティアの方々が歌や踊りを披露し利用者を楽しませてくれている。また、地元小学校の児童によるボランティア交流も継続して行われている。町民文化祭には利用者が作品を出展し会場を訪れるなど、地域との輪ができています。地域の農家から、野菜や乳製品の差し入れがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員が駒子の湯へ出向き、「筋力アップ講座」で血圧測定や健康に老いることの大切さを知ってもらっている。 ・駒子の湯との共催で、町民の方々に西光荘をより知ってもらう宴会プランをだしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回開催され、地域・行政・家族代表の各委員より助言や意見を頂いている。	町の担当課職員のほか、各地区から元消防団長、民生委員、保育園長のほか利用者家族代表などが委員に就任し、多様な立場から様々な意見・助言が出されている。会議での発言から、西光荘をより多くの人に知ってもらうためのアイデアが生まれるなど、事業所運営やサービスの向上につながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域包括ケア会議、個別ケア会議に出席し、情報共有と協力を得ている。 ・町の担当者と連絡を取り助言・指導を頂いている。事業所からも相談・報告を常に行っている。 ・今年度は、実地指導でアドバイスを頂いた。	公設民営の施設として、町の第三セクターが運営しており、町との連携は密である。町主催の地域ケア会議や地域包括支援センターの会議には職員が出席している。各種情報を文書やメール、電話等で受けているほか、介護認定の更新時にも助言、指導を受けている。敷地内の温泉施設等は、地域の避難場所となっている。		

令和 5 年度

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・合同ミーティング時に身体拘束について定期的に討論会と内部研修を実施している。状況に応じ話し合い日頃の介護に取り組んでいる。 ・今回は奥州、北上ブロックで研修会が開催され外部研修に参加しました。 ・身体拘束をしないことへの理解はできているが、利用者の安全を考えると不安がある。	管理者、リーダー、職員3名による委員会を通じ、身体拘束の確認と職員の意識啓発を行っているほか、2ヵ月毎に輪番制で職員を講師とした内部研修を行い、職員の意識を高め、気づきを促す体制ができている。また「身体拘束排除宣言」を定め、身体拘束の排除に職員が一丸となって取り組むことを示す指針を策定し、事業所内に掲示して趣旨の徹底を図っている。玄関は夜間の施錠とし、離床確認、転倒予防のため、赤外線センサーを一部活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・合同ミーティング時に、虐待防止について内部研修をして話し合いの場を設けている。 ・入浴時・排泄時等に身体観察をしている。変化があった時は、看護師、ケアマネ、他の職員に報告し話し合い注意を払っている。場合によっては、社長に報告し内部研修に繋げるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・年1回合同ミーティング時、内部研修を実施している。 ・各種資格取得時にも勉強している。 ・成年後見制度を利用していた利用者が1名いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約・解約時に利用者・ご家族に理解を頂ける様その都度丁寧に説明することを心掛けている。 ・利用者・ご家族の話を聞き少しでも思いに近づけるように努めている。 ・改定の際も速やかに報告し理解・協力をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族懇談会はまだしていないが、面会や自宅に帰る時等に話を伺っている。 ・施設やご家族から電話連絡がある時に意見を頂いたりした時は、反映するようにしている。 ・生活状況を定期的にご家族に報告している。	家族の来所や受診後の面会の際に、家族の意見や要望を伺っている。また、毎月発行の機関紙や居室担当の手書きのお便りで、利用者の生活状況をお知らせしながら意向等を伺っているが、運営に関するものはほとんどない。引き続き家族への情報提供に努め、家族の意見を事業所運営やサービス改善に反映させるよう対応することになっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・必要に応じて社長と面談している。 ・職員から意見・要望があれば、合同ミーティング等で話をするようにしている。	年1回、役員と職員との面談を実施している。職員の業務への提案は随時申し出を受け、ロビーでのイベントの開催、車イス対応のトイレへの肘掛、背もたれの設置など、施設の改善などに活かしている。資格取得への5割の経費支援を行い、研修会への参加希望などを募っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・最低賃金上昇に伴い、給与賃金の足並みを揃えようとしている。まだ一部適正な配置に戻していない点もある。 ・職員の勤務状況の把握が少々不十分な面がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修を計画・実施。 ・外部研修の機会があれば参加するようにしている。 ・オンライン研修を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者は地域包括ケア会議、ケアマネは個別ケア会議に出席し、他事業者との情報共有・交流を図っている。また、相談の機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用希望の本人・ご家族に対して、実態調査や担当者会議にて話を聞き、困っていること・要望等に耳を傾け不安を軽くするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設見学・体験をして頂き、西光荘の雰囲気や職員を見て知って頂くことを勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・環境の変化に伴う事故防止に努め、本人が出来る事出来ない事を確認して必要に応じた支援をするように努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の出来る事を発見するようにしている。 ・洗濯物畳み、食器拭き、新聞畳み等を自分の役割・日課にして頂く。 ・他の利用者の簡単な見守りやお世話をする様子も見られ支え合う関係を築いてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の活動・生活状況を月1回ご家族にお知らせしている。 ・変化のあった時は、随時連絡・報告している。 ・通院は基本的、ご家族にお願いし対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・町民文化祭に作品展示をして見学に行くようにしている。	「逆デイサービス」(日中を自宅で家族と過ごす)を導入し、一番の馴染みの人である家族とのつながりを大切にしている。温泉施設が隣接しており、入浴のついでに知人がいるので会えないかと事業所を訪れてくれる人もいます。また毎年町民文化祭に利用者の手作り作品を出展して会場に向いており、会場が馴染みの場であり、馴染みの人に会える機会にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係性を見ながら席替えをしたり声掛けをし、落ち着く雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・包括ケア会議で転所先のケアマネに様子を伺ったり、情報提供したりしている。 ・ご家族より相談を受けた場合は対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人に声掛け会話をし、食べ物や塗り絵等本人の希望や思いに添えられる様努めている。困難な時には、説明して別な方法を一緒に考えたりしている。 ・歩行・立位訓練をしている利用者には、応援・声掛けをしてやる気を出せるようにしている。	利用者は趣味の塗り絵や短歌、読書にそれぞれこだわりを持っており、時々声掛けをして困っていることはないか欲しいものはないかなどをそれとなく探り、楽しい時間を過ごせるよう対応している。また、言葉での意思表示が難しい利用者が半数程度いるため、視線や仕草、行動の変化から思いを汲み取り、職員間で確認・共有するようにしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・通所を利用していた方が入所される事が多いので、本人の人の柄や病状を把握し易い。また、通所と同じ場所なので馴染み易いと考えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の健康状態や生活状況を申し送りやミーティングで話し合い、支援記録や申し送りノートで情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・朝の申し送りや合同ミーティングで利用者動向から課題と対応について話し合い、ケアの見直しをしている。・利用者とのコミュニケーションにより、思いを受け止められるよう努めている。	毎月、居室担当者が利用者の生活状況を整理して家族にお知らせするとともに、職員ミーティングの際に計画担当者も参加して利用者一人一人の生活状況についてカンファレンスを行い、ケアの見直し等について話し合っている。それらを踏まえ、原則、半年ごとに居室担当者等と計画担当者がモニタリングを行い、訪問診療医等の指示・助言も受けつつ、利用者の現状に即した計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・業務間のふとした瞬間や昼食後に関わりや気づきを共有。記録し職員間で確認している。 ・利用者のちょっとした変化・異変は、職員間で共有。看護師に相談し、協力医(金診)に相談し早めの受診に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族から外出の話があれば外出するなど、何時でも柔軟な対応をしている。 ・施設が対応して逆デイサービスの提案もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・定期的な介護相談員の訪問はまだ中止のままになっている。 ・理容師の散髪や「まなびい」を利用したの読書は、利用者の癒しや楽しみになっている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・大体の利用者は金ヶ崎診療所に主治医になってもらい、月1回の訪問診療を受け健康状態を把握して頂き、必要な薬を処方してもらい、その後の状態を報告しています。必要に応じて専門医の受診、訪問歯科受診して頂いている。	入居時に、家族の同意を得て、協力医である国保診療所の医師をかかりつけ医としている。全員が訪問診療を受診している。眼科、皮膚科、整形外科などの特別科は、家族同伴3名、他は家族の依頼により、職員が同行している。歯科は訪問歯科を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者の全身状態の変化異変に気付いた場合は、看護師に状態報告し必要な場合は、看護師の判断で受診できる様な体制になっている。 ・月1回の訪問診療時には、必ず立ち合い、状態報告をして医師より指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・利用者が入院した場合、入院先の担当医と連絡を取り、経過の把握に努めている。退院時のカンファレンスに出席、もしくはFAXにて退院後の支援計画の情報収集をし生活援助に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に認知症症状の重度化に伴い、身体症状が悪化した場合は必要に応じて次のステップへ移行して頂く事を説明している。また、悪化した時も改めて説明している。但し、ADL全介助であっても経口摂取ができ、他の身体症状がない場合は継続入居としている。主治医にも相談・指示を受けている。	入居の際に、重度化した場合の対応を説明し、了承を得ている。看取りまでは行っていないが、できるだけ住み慣れた場でとの思いから、訪問診療医の指示や常勤の看護師の支援を得て、可能な限りぎりぎりまで終末期の介護サービスを提供している。看護師による終末期の医療、看護について、勉強会や研修会を開催し、処置対応に万全を期している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・合同ミーティング等、内部研修、オンライン研修を利用し急変時の対応について学習する機会を設けている。対応にあたった職員・看護師が処置実践について必要事項を伝えている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災委員会が中心となり年2回訓練を実施しているが、コロナ禍によりまだ消防は電話対応のみで地域消防団の協力は得ていない。地域住民（役員）の協力をお願いしている。 ・自家発電機と蓄電器を合同ミーティング時に使用し、いつでも対応できる様に準備している。	総合防災訓練を年2回実施している。コロナ禍前は地域消防団の協力が得られていたが、現在は地域住民の協力をお願いしている。職員による夜間の訓練を行い、課題の検証を行っている。備蓄は食材、飲料水など3日以上あり、毛布類も十分に在庫があるほか、自家発電機、蓄電器も整備している。温泉施設を含め、地域の避難場所の指定を受けている。	十分企画を練ったうえで、薄暮の時間を利用して、夜間勤務者に加え、利用者参加による夜間想定訓練を実施し、課題の把握や対応策を検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員信条にある「言葉遣いは柔らかく丁寧にする」を心掛けて対応している。 ・親しい関係について指示的な言葉遣いになってしまいう場面もあります。	個人情報、文書を事務室で管理し、パソコン情報は、パスワードで管理している。パンフレットへの写真掲載は、家族の同意を得ている。入浴、排泄の異性介助は特に問題はない。元教師、元看護師の利用者が、前歴を活かしたお手伝いをして自尊心を傷つけないよう配慮している。居室入室の際には、声かけ、ノックをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・排泄介助はもちろんの事、思いやりのある優しい声掛けを意識して対応している。 ・利用者の表情を見ながら会話対応している。時には、必要に迫られ声高に声掛けしてしまう事もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・併設の小規模多機能型との合同レクリエーションの参加・不参加や、日々の作業等の希望を聞きながら個々の体調を見ながら各々のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・表情を伺いながら決めたり、自己決定できる方は本人の希望で着るようにしている。 ・不足している衣類は、家族に連絡して用意して頂いたり職員で対応している。 ・衣替えは定期的に行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者に応じた硬さ・大きさ・量で自力摂取できる様支援している。上手く口に運べない方には声掛け説明をし手伝う様にしている。 ・季節の山菜や刺身、手作りおやつを提供している。 ・食後、食器拭きを手伝って頂いている。	職員が調理し食事を提供している。昼は業者のメニューを選択し送付された食材を使用し、朝、夕の食材は地元スーパーで購入している。農家差し入れの野菜や家族からのバナナ、ゼリーなどの差し入れも活用している。おやつは購入又は手作りのドーナツなどを提供している。敬老会、運動会、誕生会、クリスマスなどでは、ちらしずしや郷土料理の芋のこ汁のほか、好みのノンアルコール飲料やお刺身も提供している。一部、刻み食、とろみ食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士作成のメニュー（外部）に沿って調理。 ・利用者各々の状態に合わせ食事量・硬さ・大きさ・トロミを付けている。 ・水分量は、1回200ccを1日5回提供している。 ・主治医から意見・指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケア時に口腔観察し、自分で口腔ケアができる方でも必要に応じて仕上げ介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレで排泄できる事を基本に、排泄パターンを把握し各々に合わせトイレ誘導している。 ・失敗しても排泄があった事を喜んだり体調を気にし合えるようにしている。 ・排泄用品は、個々に合った物を用意し変化が見られた時は、随時職員間で話し合い対応している。	排泄チェック表によりパターンを把握し、表情も見ながらそっと声掛けしトイレに誘導している。一斉声かけは、食事前、おやつ時、就寝前にしている。夜間もポータブル利用者はおらず、チェック表に沿って時々様子を見て、必要なときはトイレに誘導している。トイレ利用は8名、ベッドでのオムツ交換は2名である。布パンツは1名、他の方はハビリパンツにパットを併用している。失敗した時には、心情を大切にやさしく声かけし、トイレやシャワーで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・植物繊維摂取を基本に、乳製品や腸内細菌を増やす飲み物、水分補給を促している。 ・腹筋を刺激する歩行に目的を持たせて援助している。・便秘薬に関しては、主治医に相談・指示を受けている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・天然温泉を提供。 ・見守りだけで入浴できる利用者は少なく、血圧や身体状態によりシャワー浴、かけ湯、短時間入浴になっているが、入浴が楽しみの一つになっている。	週2、3回の入浴とし、小規模多機能ホームの大型の浴槽で温泉利用している。2、3人で一緒に入浴を楽しんでいる。その日の体調でシャワー浴やかけ湯の場合もあるが、足湯を楽しむ利用者もあり、天然温泉での入浴をそれぞれ自分なりの形で楽しんでいる。季節には、リンゴ湯、菖蒲、すだち湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・使い慣れた馴染みの物を自宅より持参して頂いている。 ・室温、照明等に気を配っている。 ・利用者の状態に応じて、入眠するまで側にいたり声掛けをして安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・看護師が管理し、利用者・職員に薬の効果や副作用等を説明し、必要性を理解し服薬して頂いている。 ・薬には、日付と名前を記して職員間でも声を掛け合い間違えない様気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・テレビ・DVD等を活用し、目や耳から入る刺激を大切にしている。 ・併設している小規模多機能型と合同の季節行事に参加。 ・洗濯物畳み・食器拭き等、自分の役割だと手伝ってくれる利用者もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・通院以外、外出できていないが、天気の良い日は、小規模多機能型と合同でドライブに出掛けたり、西光荘の周りを散歩したりもしています。 ・ご家族の希望で外出する利用者もいる。	コロナ禍のため外出の機会は少なくなっているが、晴れた日には日向ぼっこや、施設の周りを散歩したり、プランターの花植えやイチゴの収穫の手伝いをするなど、それぞれ外に出る機会を作っている。車いす用車両も使って、近郊の花センターや胆沢ダムに花見や紅葉見学に出かけている。小規模多機能ホームの利用者と同乗し、自宅周辺を周遊していく利用者もいる。2、3名の利用者が毎月、自宅訪問(逆ディサービス)をしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望されれば応じられるが、コロナ感染が心配で現時点ではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙が送られてきたり、電話がくれば対応している。 ・手紙の返事を書く時も、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を感じられるような飾り付けをしたり、職員が撮った季節折々の風景写真を貼って季節を感じてもらっている。	床暖房とエアコンで温度管理し、天井の排煙窓からは日の光が入り1年を通して快適である。白い壁と木彫の柱に囲まれ心が落ち着く空間となっている。ホールには、食事用テーブル、テレビが置かれ、3畳の小上がりもある。利用者は思い思いの場所で趣味や読書でくつろいでいる。壁には利用者の作品が飾られ、運動会などのイベントの写真に加え、クリスマスやハロウィンの時期には飾りつけもあるなど、利用者にとって楽しい共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者間の関係性に配慮して席替え・テーブルの位置替えをしている。 ・車椅子の利用者が多くなってきた為、少し難しくなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個室になっているので、本人が希望する事は基本的に自由にしてもらっている。 ・馴染みの物、趣味の物、写真等を飾っている。	ベッド、エアコン、加湿器、手洗い、ナースコールの他に、サイドテーブル椅子、ソファが常備されている。ラジオや写真、ぬいぐるみなどを持ち込み、自分なりの居心地のよい居室を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・施設内は、バリアフリー・手すり設置。車椅子等福祉用具を使用するのに十分な広さがある。 ・トイレや居室がわかる様にネームプレートを貼っている。居室がわかり難い方には、顔写真が貼ってある。 ・小柄な方が多いので、トイレの便座に低い便器を設置した。		